

資料1-2

クリーンアジア・イニシアティブ

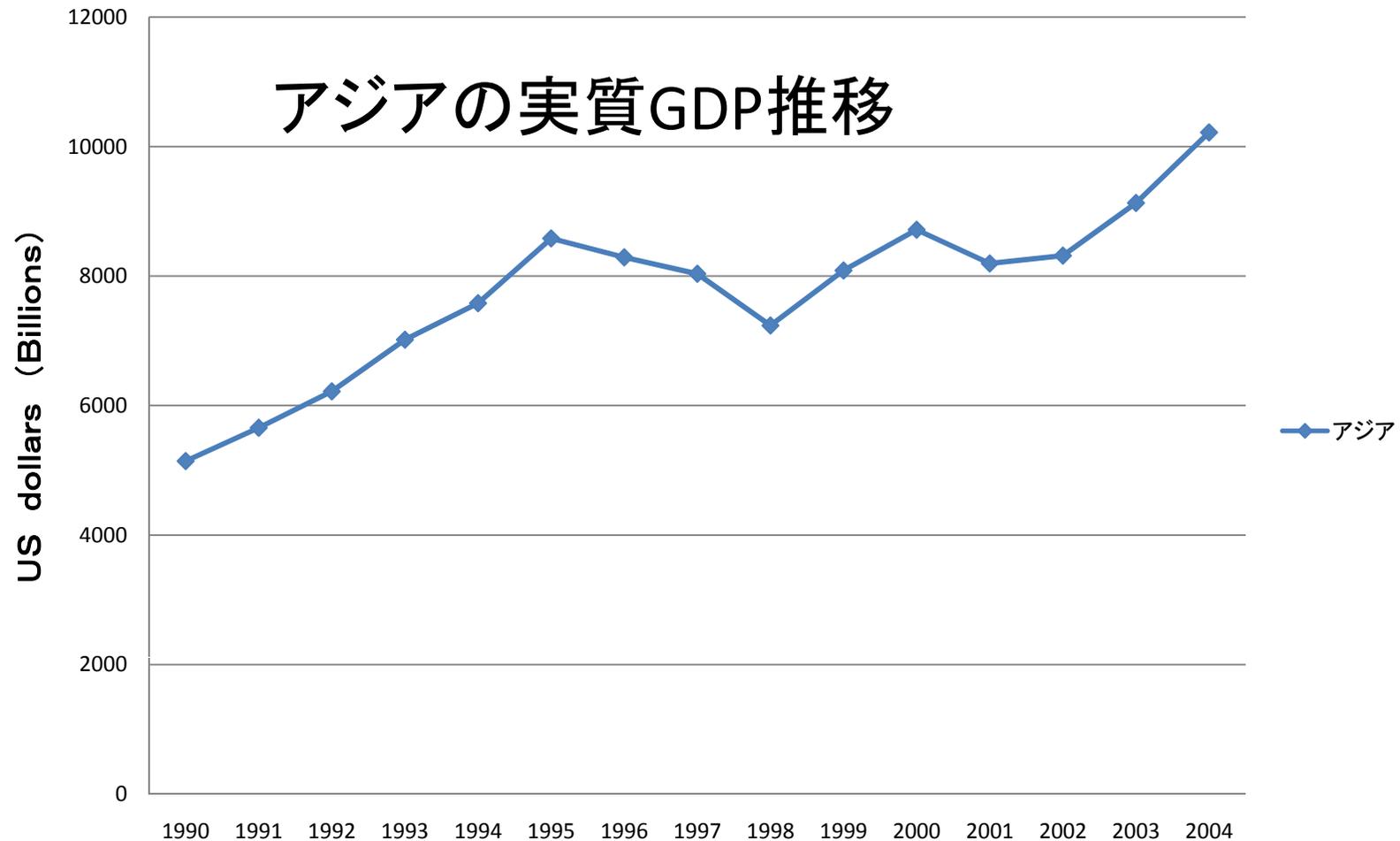
— アジア経済・環境共同体構想の軸として —

説明資料

平成20年5月28日

アジア地域の現在の状況

<経済成長の状況>

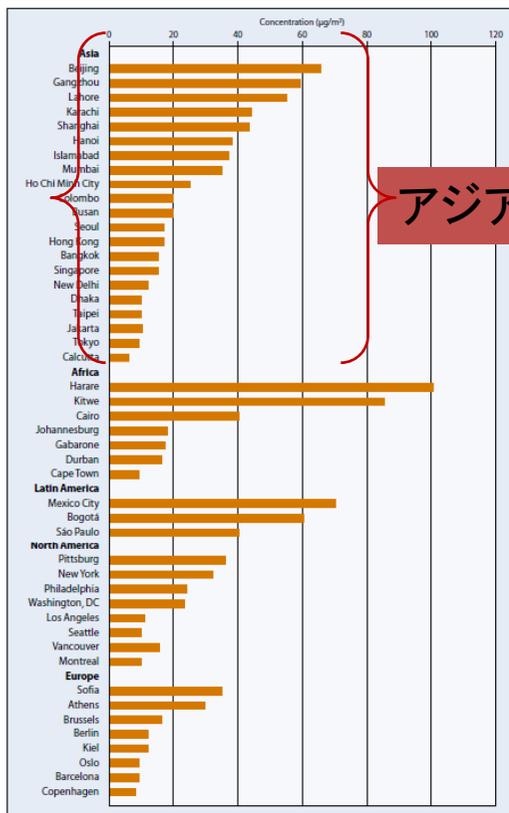


IMF (2008)

アジア地域の現在の状況

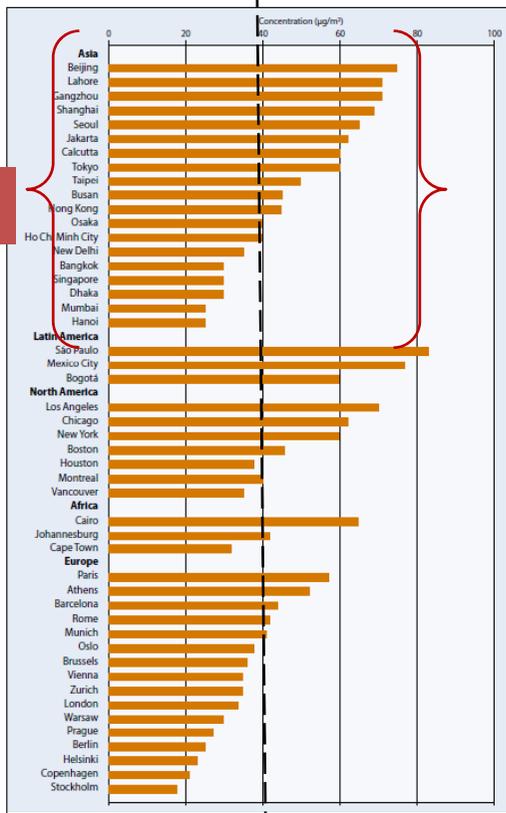
<大気汚染>

SO2



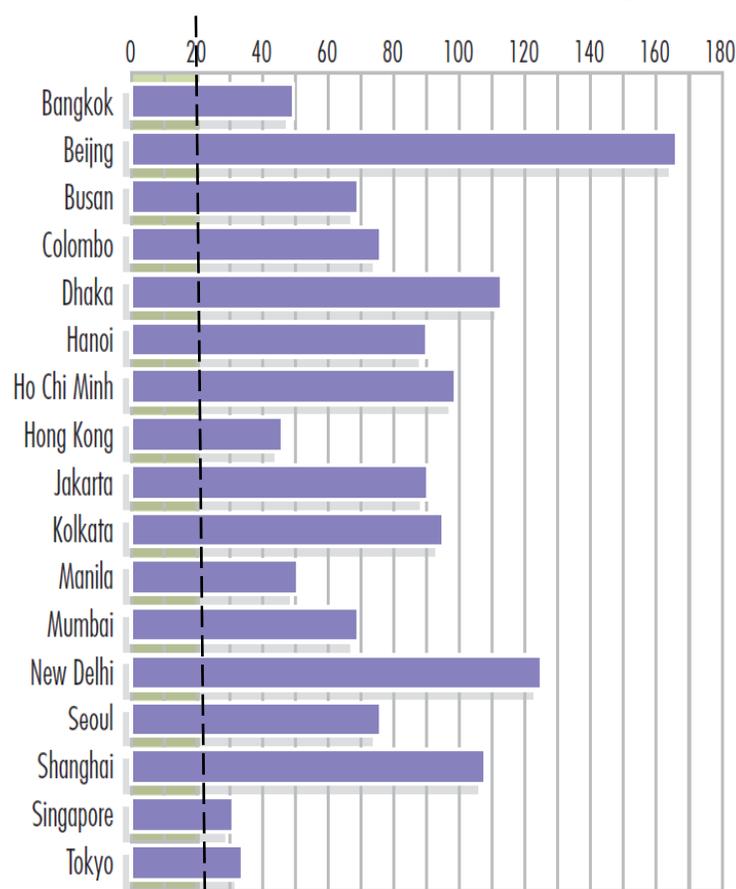
WHO (2006)

NO2



WHOガイドライン

PM10(アジアの主要都市)



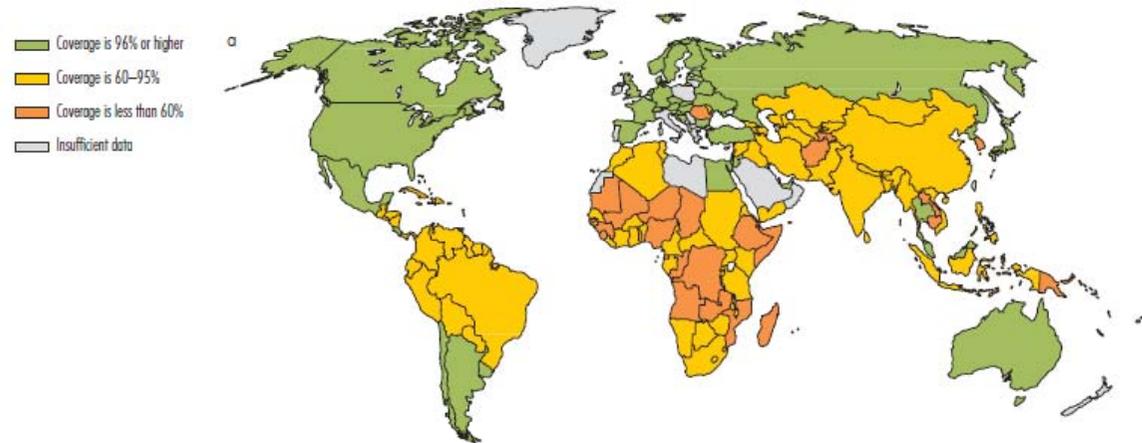
WHOガイドライン

アジア地域の現在の状況

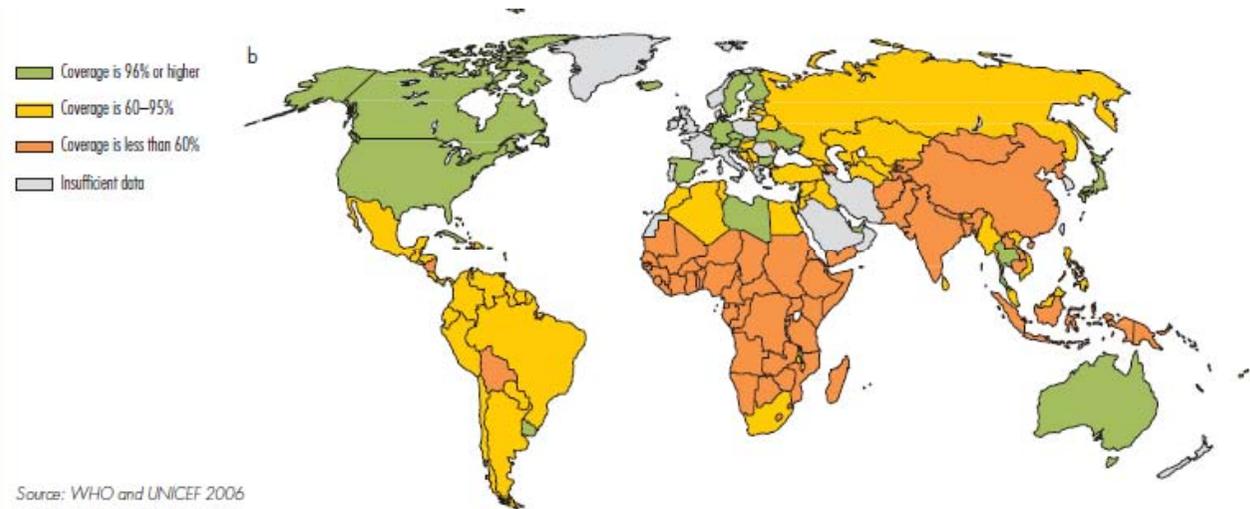
<水環境>

UNEP GEO4 (2007)
Figure 4.3

飲用水処理率



衛生処理率



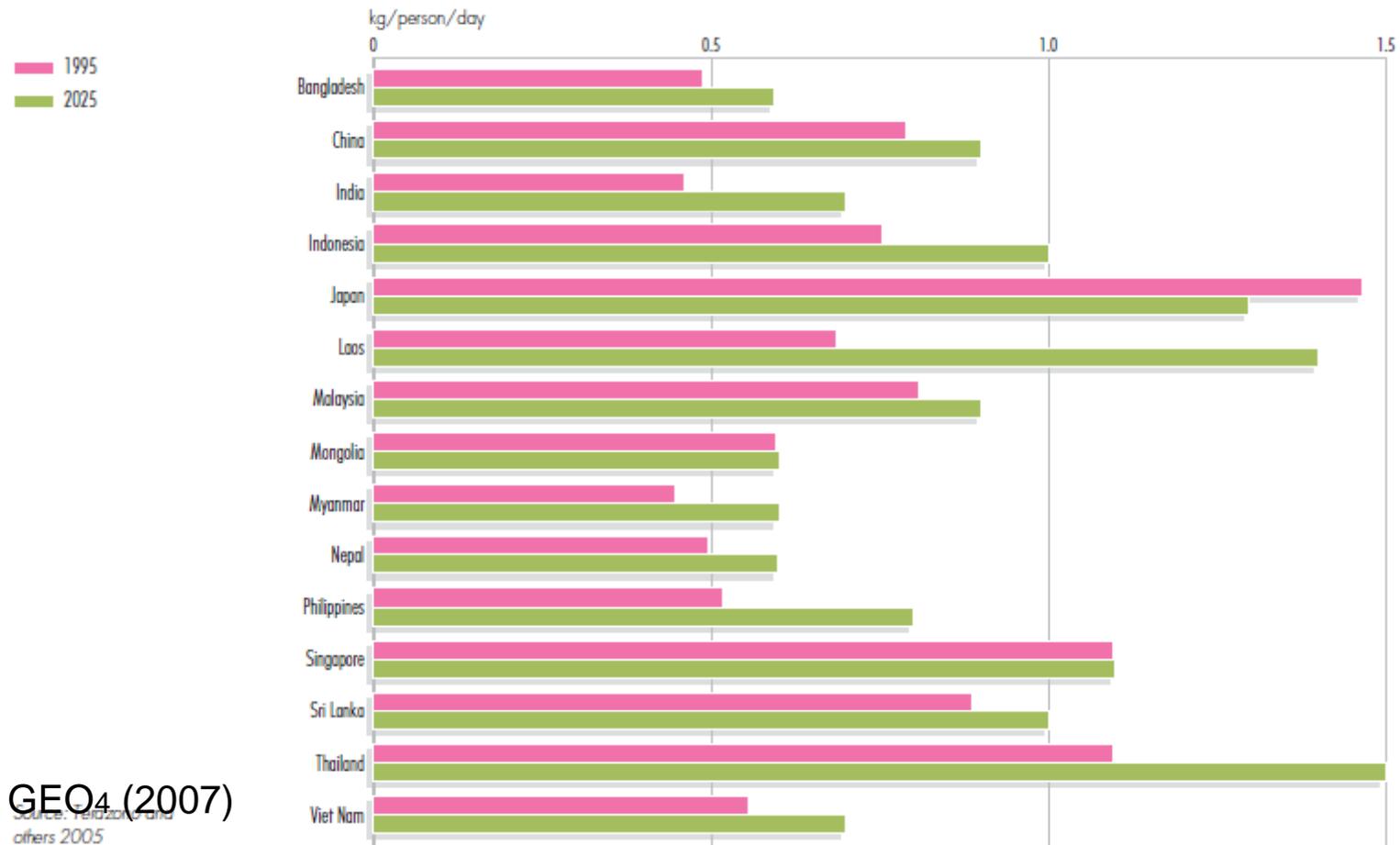
Source: WHO and UNICEF 2006

アジア地域の現在の状況

＜廃棄物・循環資源＞

アジアの一般廃棄物量（国民一人あたり）

Figure 6.20 Per capita municipal waste generation in selected Asian countries

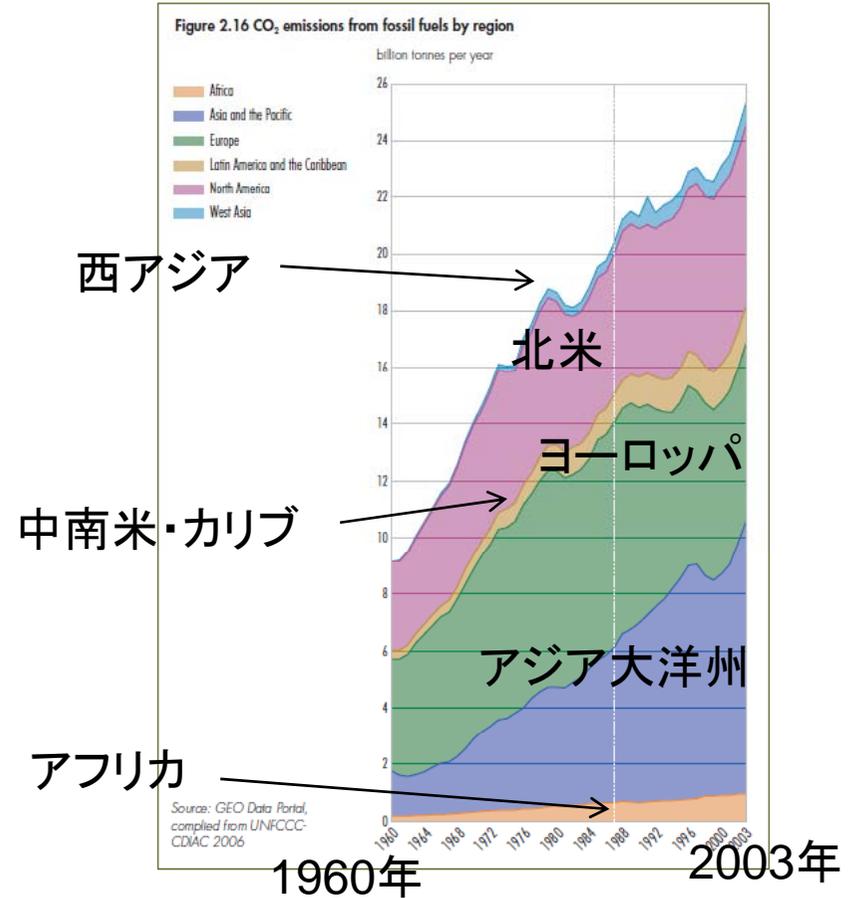
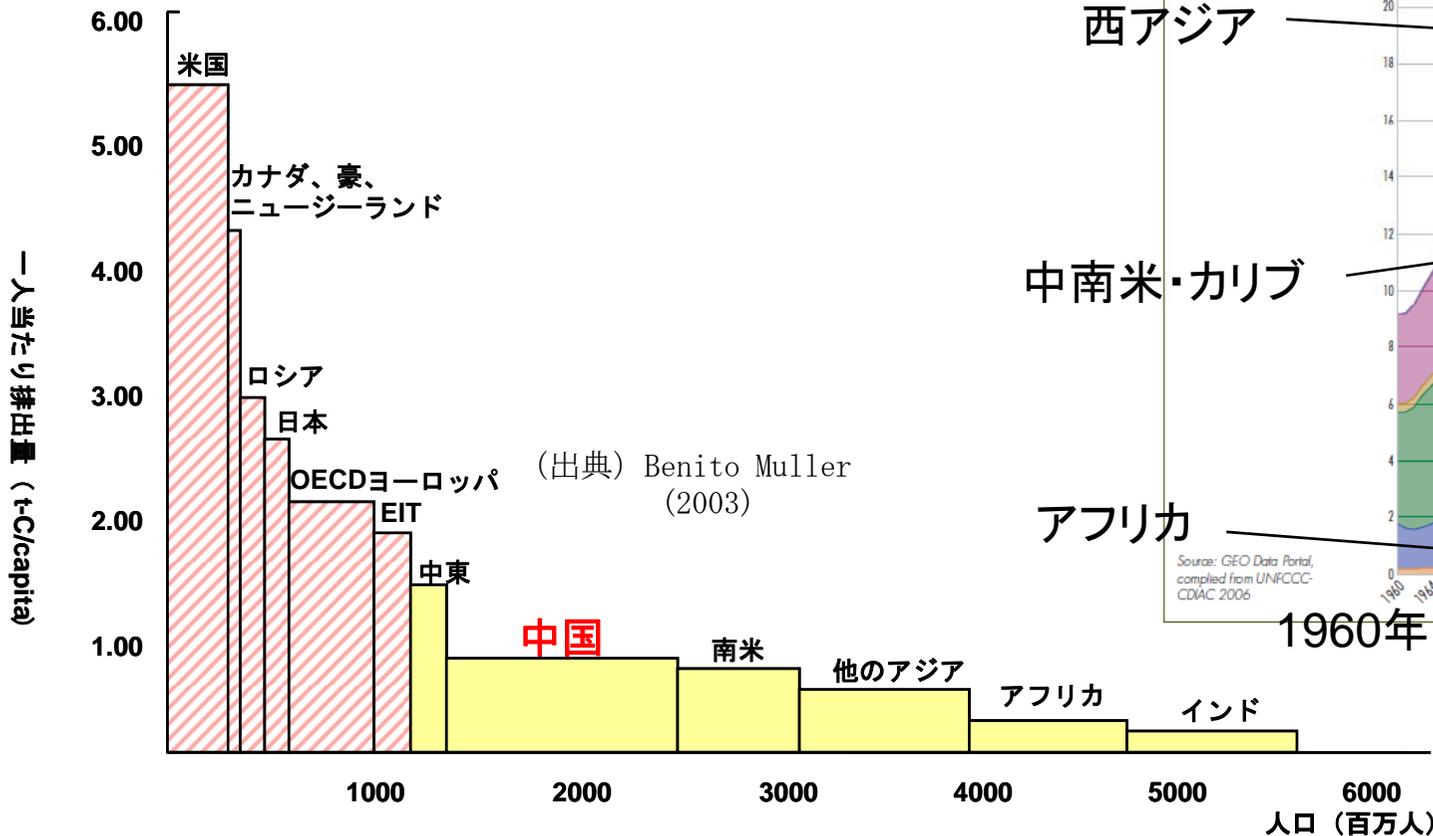


アジア地域の現在の状況

<温室効果ガス>

UNEP GEO4 (2007)

化石燃料起源のCO2
 1人当たり排出量は先進国が多いが、アジアの排出量も増加中

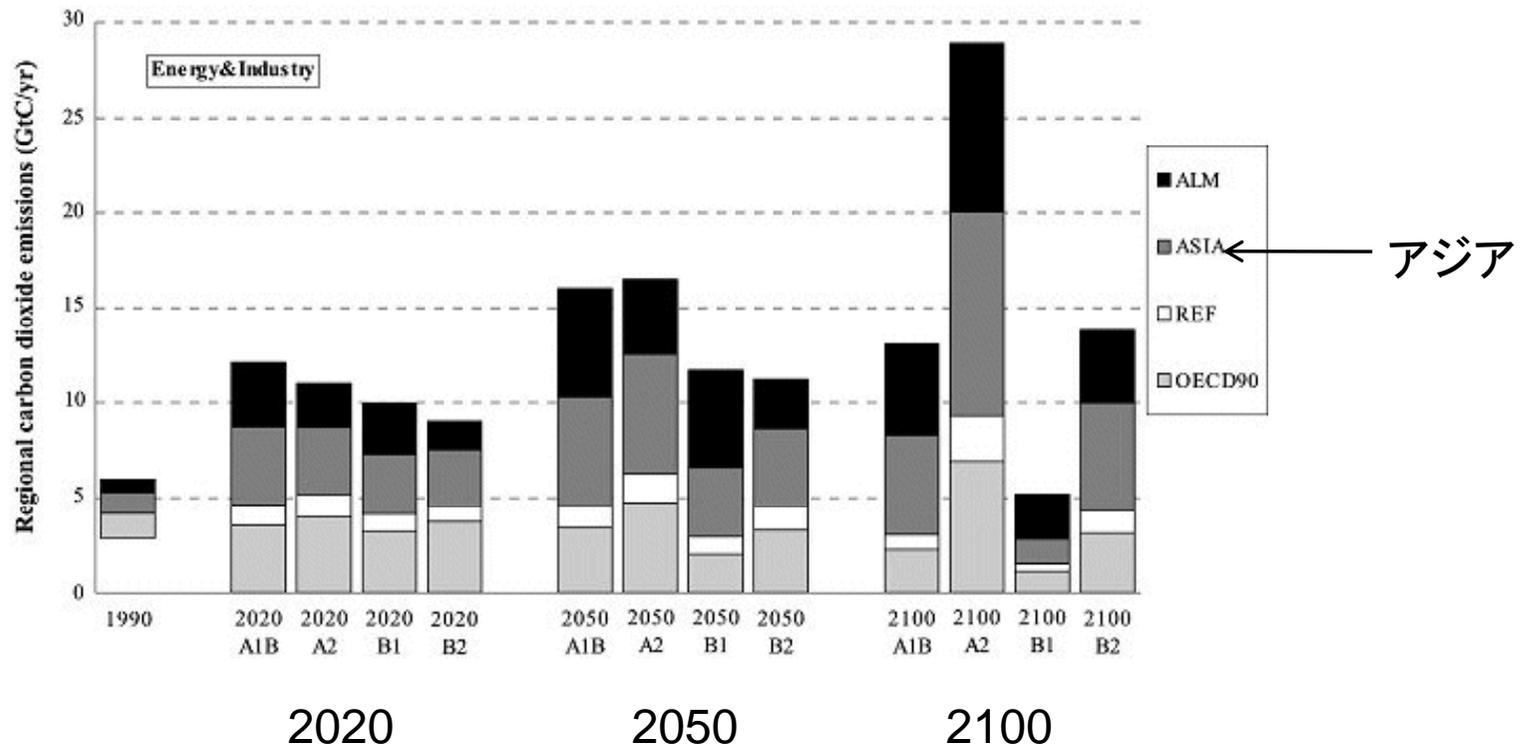


アジア地域の現在の状況

<温室効果ガス>

地域別二酸化炭素排出量予測

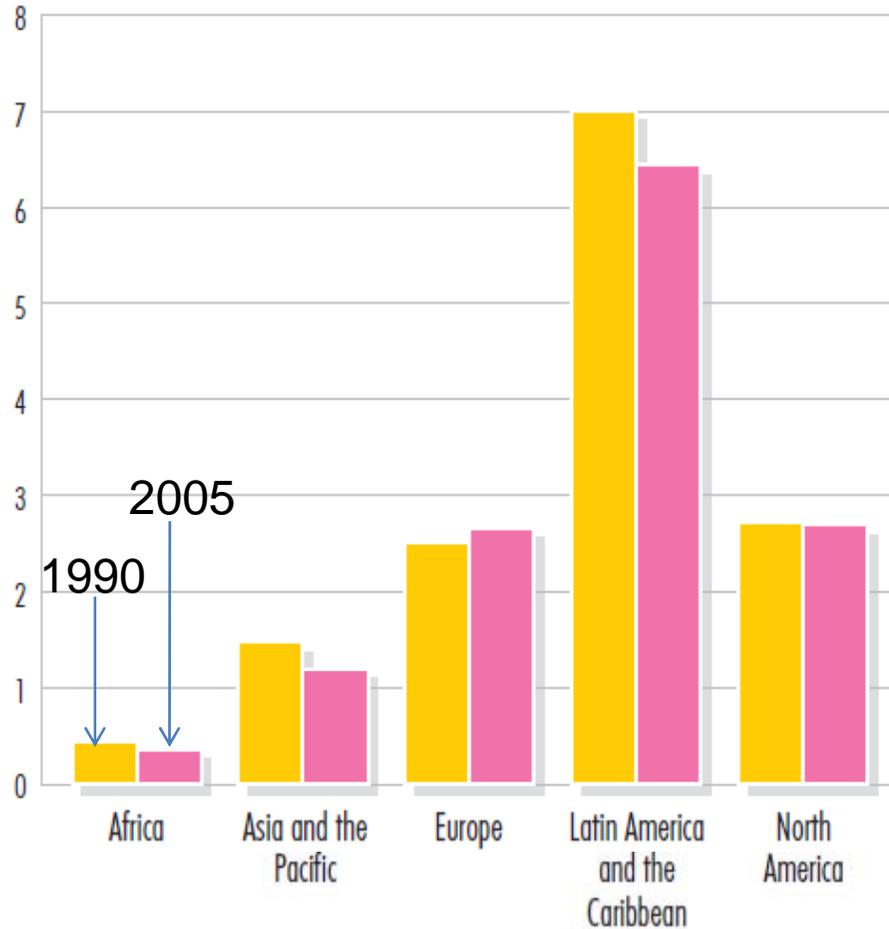
IPCC Special Report (2007)



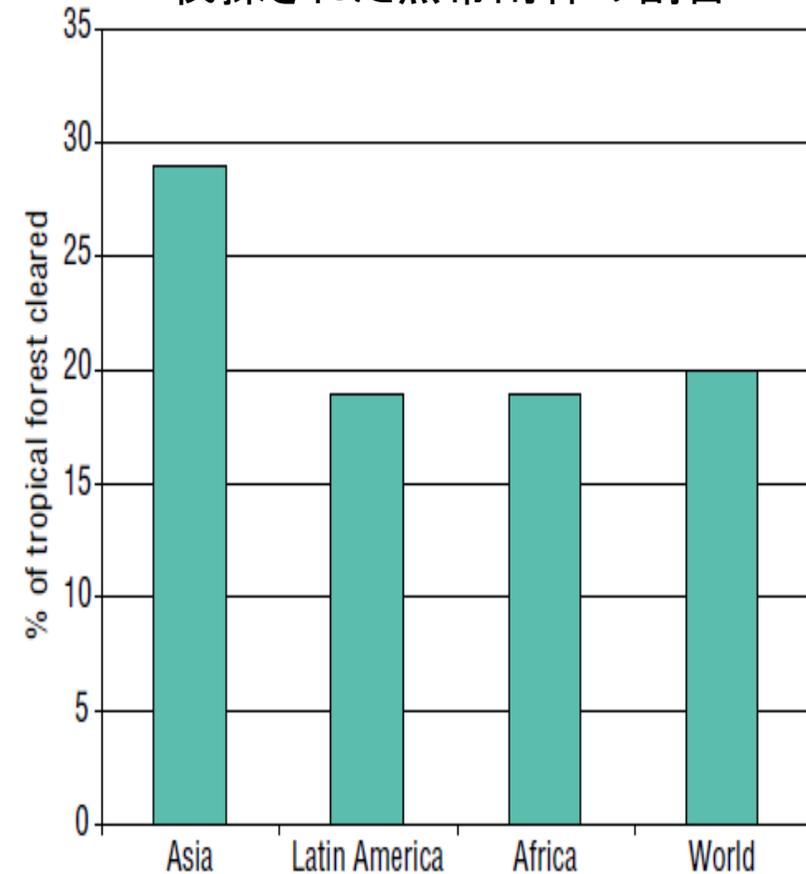
アジア地域の現在の状況

<自然環境>

million km² 地域別原生林面積



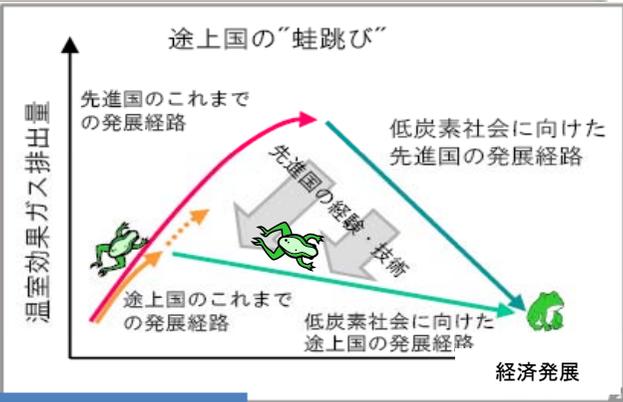
1960年～1990年の間に
伐採された熱帯雨林の割合



IGES Sustainable Asia (2005)

クリーンアジア・イニシアティブ ～アジア経済環境共同体構想の軸として～

- 低炭素型&資源循環型のアジアモデル
- 環境と共生しつつ経済発展を図る経済連携圏を構築



政策目標・施策の基本的方向

低炭素型・低公害型 社会の実現

- 低炭素社会への移行を加速するためのビジョンの共有
- 公害対策と温暖化対策を同時に実現するコベネフィット型の開発を推進

循環型社会の実現

- 東アジア循環型社会ビジョンの策定
- 我が国の技術等を活用し、各国内の3Rを支援。不適正な循環資源の国際移動を防止
- アジア全体での循環資源の有効利活用を推進

気候変動に適応し、 自然と共生する社会の実現

- 自然共生モデルの提唱
- 適応対策のためのソフト&ハードインフラの整備
- 観測及び研究による影響・脆弱性の把握・予測

横断的目標;市場のグリーン化の促進

- グリーン購入、サプライチェーンのグリーン化推進
- 金融資本市場における環境配慮型経済活動の推進

連携の基盤確立

- 自然共生社会を支えるパートナーシップの強化
- 人材の育成と活用
- 環境モニタリングや対策の標準化・ネットワーク化
- 環境と貿易の相互支持性の維持

【日本の経験・技術・組織・制度をパッケージとして、日本モデルをアジアに展開】

施策の推進体制

- **東アジア首脳会議環境大臣会合**
今年から設置される環境大臣会合で意見交換、アクションプランを策定
- **アジア環境研究・研修ネットワーク(仮称)**
各国の共同研究、域内外の研究者、技術者、行政官等の技術研修を行うネットワークの構築
- **ERIA(東アジア・アセアン経済研究センター)**
東アジア各国の持続可能な発展の観点に立った政策評価の実施と、「東アジア持続可能な発展アウトルック」の作成
- **多様な主体との連携**
学識経験者(APFED、NEAT等)、地方自治体、NGO等との連携強化